

関西福祉大学

校友会会報

Kansai University of Social Welfare

関西福祉大学校友会

平成17年6月1日



学生ホール



新学舎学生ホールの外観 (5ページに関連記事)

目次 CONTENTS

大学時代の思い出 5期生 2・3

卒業式 入学式
看護学部計画中 4

新学舎 テレビ寄贈 5

校友会ニュース 6・7
剣道部、吹奏楽部(インタビュー)、
ホームカミングデー、個別校友会

校友会会則 8

アンケート調査結果(事務局) 9

私と仕事(校友ネットワーク) 10

キャンパスニュース 11
災害ボランティア、5期生就職率、i-MAIL・学びの泉

キャンパスニュース 12
禁煙標語、人事異動、国家試験

校友会館(事務局) 12



大学時代の思い出



5期生
藤井 宏昭さん
医療法人全人会 仁恵病院
精神保健福祉士

学友会の経験と活動から

大学受験に合格し、大学生活が本格的に始まる前は、「これからの四年間は時間も沢山あるし、あれして、これして、あんなことにも参加したいな……」とこれからの新たな生活に胸を膨らましていたのですが、今、考えると本当に楽しい時間というのはあっという間であって、もう卒業なのかと自分でも大学生活の時間の流れの早さには驚かされます。

一回生の時には障害学生支援センター、二回生の時には代議委員会と、それぞれ所属してきた期間は違うのですが、その時に所属していた学友会機関での出来事が一番強く思い出に残っています。

その学友会機関の活動の中で、お互いの意見の食い違いから先輩や後輩と激しくぶつかったしまい大きな亀裂ができたこともありましたが、自分がやってしまった失敗に悩まされた経験もあり、その度に何度も「やめてしまおうか」と悩んだこともありましたが、その度に本当に尊敬することができ先輩方の助言や、大切な信頼できる後輩たちの支えがあり、ひとつひとつ解決し乗り越えることができました。この時の経験・活動があったからこそ、三回生、四回生の学生生活にハリや自信ができたと思っています。また、何よりも学友会機関に所属していたお陰で、かけがえのない人たちに出会えて本当によかったと思っています。

卒業した社会に飛び立っていきませんが、大学生活で経験した多くの事を生かし、また多くの人のつながりを大切にしながら頑張っていきたいと思っています。



5期生
松岡 美奈さん
株式会社 インターナカツ
JEANS FACTORY
販売員

第二の故郷

春から、新社会人になるうとして今、大学生活での四年間という時間がいかに自分にとって貴重なものであったかということ改めてかみしめています。

兵庫県に来てまず驚いたことは、方言が全く違うことでした。県外に出てみて、初めて自分の住んできた土地の特徴や風土、文化などの良いところを再認識することができました。

また、隣県などに電車を使って気軽に移動できるといったところも魅力的に感じました。

関西に慣れてきたこともあり、赤穂という土地で一人暮らしをスタートさせることに胸を弾ませ入学しましたが、その気持ちとは裏腹に、入学当初の町の景色も雰囲気も何かよそよそしく感じたことを今でもはっきりと覚えています。

しかし今では、友達や地域での知り合いも増え「赤穂が第二の故郷」と呼べるほど、とてもこの土地と大学に愛着を感じるようになりました。

大学時代に得たもの。それは勉強だけではなく、県内には得られなかった名残惜しいと心底思える友人が沢山できたこと。これは私の宝物です。

就職活動では、地元で就職したい企業が早くから見つけられましたが、自分にとって新たな分野での仕事であることに相当悩みました。ですがこの販売という選択肢を選んだことは、「一人との繋がりを大切にしていきたい」という自分の意思が入っており、自分の中で意味のある選択ができた満足しています。

これから社会人となり、厳しい社会の荒波の中に入っていきますが、どんな時もこの大学で学んだことを忘れず自分の頑張る原動力にしていきます!!



5期生
加藤 睦美さん
株式会社オフィスセンター
グループホーム やまと

友人関係の広がり

赤穂で過ごした四年間はとても充実していました。「あっという間に学生生活が終わったなあ。」という感じがします。

関西福祉大学での思い出は沢山ありますが、その中の思い出の一つとして、大学実行委員を経験したことです。模擬・企画・情報宣伝と三回経験し、仲間と共に大学祭を作っていく楽しさや嬉しさを感じ、大学祭後は、やり遂げた充実感と満足感で一杯になりました。また、実行委員に入ったことで先輩、後輩、友人関係も広がりました。

もう一つの思い出は、サークル活動です。今まで経験したことのない男子バスケットボール部のマネージャーを務めました。最初、私はバスケットの知識は一切ありませんでした。なので、先輩や友人に分かりやすく教えてもらい、徐々にバスケットの楽しさを学び好きになることができました。

また、日々の活動の中で、マネージャーとして遣り甲斐を感じることもできました。とことん騒いで楽しんでいたり、楽しいことや嬉しいことはかき取り、時に、悩んだり、皆でぶつかり合うて話し合ったりということもありましたが、男子バスケット部でマネージャーとして四年間過ごせて本当に良かったです。

男子バスケットボール部の皆さん、学生リーグ頑張ってくださいね!!

これらの思い出と同じくらい大切な思い出は、友人と過ごした楽しい日々です。顔を突き合わせて勉強したり、買い物に行ったり、飲みに行ったり、旅行に行ったり、家でパーティーをしたり……。将来のことを熱く語り合うこともありました。

関西福祉大学に入学し、沢山の素晴らしい友人に出会えてとても幸せに感じています。



5期生
田中 智美さん
社会福祉法人 北星会
特別養護老人ホーム 天橋の郷
介護職

大学祭の感動と充実感

私にとってこの大学生活四年間の中で、一番の大きな思い出は大学祭です。大学生活の中の二年間は、汐桜祭・汐風祭の取り組みに励んでいました。

一年次では、先輩たちに指導・手助けしていただきながら大学祭を成し遂げることができました。二年次では、自分達が先頭に立ち、前年度の良いものを残しつつ新しいカラーが出せるよう手探りの状態で大学祭に取り組みました。特に二年次は、副実行委員長を務めさせていただき、その責任の重さに押しつぶされそうになった時もありましたが、その度にかげがえのない友人・先輩達が励ましてくれ大きな心の支えとなりました。

大学祭の準備は、高校・中学の祭とは違い規模も大きく、早くから皆で取り組んではいても、精神的にも肉体的にも、とても大変なものでした。しかしそのぶん、大学祭を終えた後の感動と充実感はなにものにも変えることのできないものであり、その気持ちを含んでも忘れることができません。私が実行委員になって得たものは数えきれません。そして、嬉しいときだけでなく、辛いとき、苦しいときに心の支えとなってくれたすべての人に感謝しています。

私も四月から社会人です。学生時代と違い、辛いことも沢山あると思います。でも、そのようなことに負けず、今よりも更に成長できるように一所懸命頑張っています。

私にとってこの四年間は、伸び伸びとした自由な時間でした。こんなに自由な時間を持てるのは学生の時だけだと思います。学生の間に色々なことに挑戦し、一所懸命学び、遊び、良い友人・先輩をつくり、悔いの残らない青春を送ってもらいたい。誰にも負けない素晴らしい思い出を沢山つくりたい。



5期生
河本あずささん
社会福祉法人 天王谷学園
児童指導員

演劇部の仲間が宝

この四年間の大学生活を振り返ると部活動や初めての一人暮らしのことが多く思い出されます。

私は、大学入学前から演劇部に所属しようと思っていましたので、入学後は、迷わず演劇部に入部しました。演劇部の活動はハードで、特に公演直前になると、勉強やアルバイトとの両立が困難になりました。

しかし、いざ本番、私達の演技を見に来てくださったお客様に気持ちが伝わり、とても嬉しくそれまでの練習の苦労や、仲間同士で励ましあつたことなどが走馬灯のように思い出され、辛くても活動を続けて良かったという気持ちになりました。こんな充実した日が続いたら、「いつそこのまま劇団に入団してしまおうか……」と夢みた日もありました。充実した日々を共にした仲間が「私の宝物」です。

また、部活動とともに思い出に残っているのは、一人暮らしの経験です。初めてのことでもあり、家事の大変さや自由の素晴らしさ、それに伴う責任の重さというものを実感しました。このことは、自立するための良い練習になったと思います。

大学の講義や実習では、児童福祉や高齢者福祉といった様々な分野について学び、現場を体験させていただくことで、これまでにはない考え方や視点で物事を見る大切さを知ることができました。

就職して現場の職員の方達のようにお役に立てるの不安ですが、周囲の人達と泣いたり笑ったりしながら、必要なときに手を差し伸べることができるプロを目指し頑張りたいと思っています。その他にも課外活動委員会や部活動の運営に関わったり、ボランティアで多くの人と接したりすることで、人の温かさや思いやることの大切さを改めて感じました。

出会った人達のことや体験した出来事のすべてが大切な思い出であると共に、自分を高める勉強になったと感謝しています。



5期生
木原 拓哉さん
株式会社日本エイベックス

Enjoy生活

関西福祉大学に入学し、硬式野球部に所属して四年間過ごしました。毎日必死に練習に励み、そのなかでかけがえのない友人たちに出会い本当に楽しい学生生活を送ることができました。今考えると楽しい時間というのはあつたという間でもう卒業したのかと思うと自分でも大学生活の時間の流れの早さには驚かされます。

大学生活の中で印象の強い事は、やはり野球です。大学で野球をしてなかったら今の自分はないと思うくらい、野球というスポーツは私自身を成長させてくれました。その野球部の活動の中で、お互いの意見の食い違いからチーム全体の雰囲気バラバラになったこともありました。私自身がチームに迷惑をかけたこともありましたが、その度に大切な同期の皆の助言や、信頼できる後輩達の支えがあり、ひとつひとつ解決し乗り越えることができました。

「やらなければならぬことから逃げて解決できたとしても得るものは無い」ということを関西福祉大学硬式野球部で学ぶことができ、本当にいいチームで野球ができたからこそ大学生活がEnjoyできたのだと思っています。本当にかげがえのない友人たちと出会えたことが、この大学に入学して何よりも良かったことだと心底思っています。

今、卒業して日本エイベックスの新人社員としてがむしゃらに頑張っています。社会に出て色々な辛いことがあると思いますが、人生とは、冒険と経験だと思っていますので、苦勞を楽しみ、困難と戯れ、大学で経験したことを生かし、また多くの人とのつながりを大切にしながら、がむしゃらに頑張っていきたいと思います。「継続は力」で。

一口メモ

開学以来の卒業生総数
1255名

平成17年3月23日の第5回卒業式において241名に卒業証書と学位記が授与され、本学開学以来の卒業生総数は1255名となりました。

卒業生数の期別内訳

第一期生277名 第四期生231名
第二期生232名 第五期生241名
第三期生274名

校友会の「正会員」は「本学を卒業した者」です。(校友会会則 第5条)

看護学部看護学科 平成18年度開設計画

関西福祉大学は、看護師、保健師などを育成する看護学部看護学科の設置を計画(平成18年4月1日開設予定)です。

本学は開学以来「地域とともに」をキーワードとしており、地域住民のQOL向上のための人材を育成してきました。看護学部においても、高度医療を担当する質の高いスタッフの養成と相俟って、地域医療、在宅看護など、より地域に密着した医療を支える看護師、保健師を育成し、地域社会に貢献します。

本学は赤穂市との連携を担う組織として、附属地域センターを設置しています。看護学部の設置後は、地域センターの機能をさらに充実させ、地域の保健・医療・福祉の実践・研究活動の拠点とする予定です。

医療の高度化・複雑化に伴い、医療現場にかかわる看護師においてはハイレベルな専門知識と専門技術の修得が求められるだけでなく、生命の尊厳を理解できる確固とした生命倫理観と幅広い教養に支えられた豊かな人間性が求められます。

また、看護師には医療スタッフとしての能力のほか、福祉分野など他の分野の専門職と連携するための調整役としての資質や能力が求められています。

本学は、これらの要請に応え得る質の高い看護師・保健師の養成を目指します。



看護学部完成予想図

平成16年度

卒業式挙行

(第5回卒業式)
平成17年3月23日(水)

関西福祉大学平成16年度卒業式(第5回卒業式)が、平成17年3月23日(水)ハーモニーホールにおいて挙行されました。和田学長から5期生241名にそれぞれ呼名の上、卒業証書・学位記が授与されました。

学長は式辞のなかで、高木兼寛と緒方洪庵に触れつつ「自律」について説き、卒業に当たっては、まず、人生の志を高く掲げることが大切であると論じました。

式典には豆田赤穂市長をはじめ来賓多数の出席があり、祝福と激励の言葉を賜りました。卒業生たちは、出席家族ともども感激に浸り、決意を新たにしていました。

優秀な成績を上げた卒業生が式典の中で表彰・紹介されました。

山下華代(成績最優秀賞)、高部純代(成績優秀賞)、宮本幹子(成績優秀賞)、枝川哲也(特別賞)、村中信治以下19名(高校教諭一種免許状(福祉)取得者、紹介)、華道部(理事長賞)、吹奏楽部(理事長賞)、手話サークル(やつなみ賞)。



平成17年度

入学式挙行

(第9期生入学)
平成17年4月5日(火)

関西福祉大学平成17年度入学式が、平成17年4月5日(火)ハーモニーホールにおいて挙行されました。第9期の入学生359名、編入生7名、計366名がそれぞれ呼名され、和田学長から入学を許可されました。

入学生を代表して土遠晋介君が宣誓しました。

土遠君は中学生のとき、福祉の道に進み人々の支えになりたいと決心しました。そのために、施設的にも環境的にも恵まれた赤穂の関西福祉大学を選びました。「初心を忘れず精進します」「社会に貢献できる人間になれるよう努力します」と力強い宣誓が会場に響きました。

「入学生歓迎の言葉」より(校友会会長 橋本篤さん)

毎年先輩が卒業し、去っていきます。そして、残された後輩が、先輩が築いた基盤の上に今度は自分たちが何かを作る役割を担います。困ったことや分からないことは身近にいる先輩にすぐに相談してください。私たちもまた、少しでもアドバイスできればと考えています。楽しいキャンパスライフを共に歩んで行きましょう。皆さんの活躍を期待して歓迎のご挨拶といたします。



新学舎完成

「おや、ここはどこ」

4月に入って、学内に新鮮な感動が広がっています。

先生方と事務担当者が力を合わせて練り上げたキャンパスプラン第1期工事が終了し、新研究棟と大講義棟が完成したのです。

新学舎の窓から外をのぞくと、見馴れた赤穂の山々が新しい風景を見せています。学舎をつなぐ長い廊下の端に立つと、まるで別世界に誘われるような錯覚を覚えます。

強い要望があった大講義室の座席数は435。以前の大講義室の300席に比べると大幅増です。それだけでなく、足元は広く天井は頭上に高く、開放感にあふれています。

開学10年、母校、関西福祉大学はスタート直後のダッシュから、今、力強い第二の発展期を迎えています。これからは関係者が一体となり、大学を支えることになります。

新学舎をぜひ見に来てください。



大講義室

50インチプラズマテレビ 校友会が寄贈 —新学舎落成記念—

大講義棟一階 学生ホールに設置

関西福祉大学校友会は、このたび新学舎の落成を記念して、大画面(1327×843)のハイビジョンプラズマテレビ(パナソニック)を大学に一台寄贈しました。現在、アナログとBSが視聴できます。設置場所は、大講義棟学生ホールの西側入り口寄り、支柱の内側です。

学生ホールの横にはゼミ室があります。また、学生ホールそのものが、自由に学習できるスペースになっています。「勉強している人の邪魔にならないよう、静かに視聴してください」と大学の担当者は語っています。

プラズマテレビの前の壁面には、教育後援会が寄贈した「ベンチで縫い物をする女」(ベルト・モリゾ1841~1895)が掛けられています。



インタビュー

INTERVIEW 剣道部(女子)

剣道部(女子)、昨秋全日再出場

副主将 中村 宏美さん

関西福祉大学剣道部(女子)は、昨年九月二十日の第二十八回関西女子学生剣道優勝大会(於 大阪市立中央体育館)において、団体戦三勝一敗の好成績を挙げ、上位十二校に入り、念願の「全日(ぜんにち)」(全日本女子学生剣道優勝大会、平成十六年十一月十四日、於名古屋)に出場しました。

「全日」は本学剣道部(女子)にとって最も大きな大会であり、平成十四年の初出場から二度目の出場となる快挙でした。副主将の中村宏美さんは平成十四年、一年次生で出場、十五年度二年次生のときは不出場、十六年度の昨秋、三年次生で再度出場を果たしました。昨年の戦績を振り返って、「感想をお聞かせください」

昨秋は、予選前の合宿で相当きついメニューをこなしていたので、予選は自信を持って臨めました。練習の実力を出せば勝てると思っていた。勝って師範に喜んでもらいたい。これは皆の気持ちであり、皆が目標に向かって気持ちを一つにしました。

しかし、「全日」では残念な結果になりました。一回戦で青森大学に負けました。原因は、試合慣れしていなかった、大きな大会の緊張感、雰囲気になれてしまったなど、いろいろ考えられます。体が固まってしまい、思っている動きができませんでした。

今年の目標は、五日後の次の日曜日には、兵庫学生剣道大会があります。いまは一つ一つの試合を大切に、みんなで気持ちを一つにして、一つでも上位を狙いたい。女子剣道部が強い秘密は、チームワークにあると思っています。皆が仲よしであるという原点を大切にしたいです。



写真は平成16年11月10日(水) 学長室で行われた「全日」出場激励金贈呈式の模様です。激励金は、教育後援会、親睦会、有志教職員、校友会が提出しました。

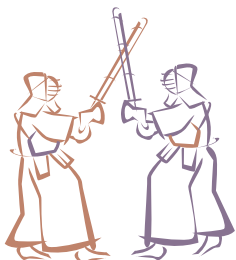
今年(平成十七年)四月十八日)

「応援してくれる友人たちに一言お願いします」

目標達成!! 見ててネ!!

ありがとうございました

(インタビューは平成十七年四月十八日)



ホームカミングデー OB・OGの里帰り



校友会では、汐風祭の二日間を「ホームカミングデー」に設定して、OB・OGの校友に里帰りの大学訪問を呼びかけることにしました。

第一回「ホームカミングデー」は昨年十月二十三日、二十四日の汐風祭に重ねて企画しました。

校友会学内幹事や特別会員(教職員)の努力により、里帰り会員のブースが設置され、金券(模擬店)や開福饅頭の配布、写真撮影などが行われました。準備は短期間でしたが、二日間で一〇三名の里帰り卒業生がブースを訪れました。

ブースで同窓生のポラロイド写真を見つけて来学を確認し、再会を果たし、疎遠になっていた友人と連絡先を交換し、「なつかしい」と歓声を上げる光景があちこちで見られました。先輩を見つけて喜ぶ後輩の姿も見られました。

今年の第二回「ホームカミングデー」(汐風祭と同時開催予定)は、さらに企画を練って、卒業生に喜んでもらえるものにしたいと考えています。



10月29日(土)~10月30日(日)
10:00~16:00予定
第2回ホームカミングデーを汐風祭と同時開催



INTERVIEW 吹奏楽部

インタビュー

吹奏楽部、エネルギーの秘密

部長 池田君、指揮者 桑田君

吹奏楽部は、平成十五年八月、県のコンクールにおいて銀賞、県教委奨励賞を受賞し、十六年八月にも二年連続して銀賞を受賞しました。十七年二月には、阪神・淡路大震災十周年パレードに参加しました。地域の催しに演奏を依頼される機会も増えました。近いところでは五月八日、精華園祭に出演し、六月二十二日には日生東小学校で演奏します。平均すると月一回どこかで演奏活動をしていることになります。

吹奏楽部は、訪問演奏ボランティアを勉強の場として大切に、聴く人に喜んでもらえる曲目・演奏は何かとこのことを練習のときから追求しています。演奏してほしいという外部からの依頼は、吹奏楽部にとって訪問させてもらう、演奏させてもらう、勉強させてもらう機会だと受けとめています。地域の人々を大切に、地域に出かけることをメインにする伝統が形づくられているのです。

今年二月二十七日の第三回はおかげコンサートは、第一部は現役部員のみによる演奏で練習の成果を披露し、第一部はOBと現役の合同演奏で満席のお客様に楽しんでいただきました。

第一部 愉快に歩けば、ウイーンはいつもウイーン、あの日聞いた歌、吹奏楽のための「風之舞」、ジュビロ一序曲。



第一部 童謡メドレー、ジャバトズグラフィ、組曲「惑星より木星ヒットパレード」。

コンサートの開催に当たっては先輩にならうて今年も正月を挟んで二ヶ月間、地域まわりをしました。部室に赤穂市の住宅地図を張り、市域の全戸を手分けして訪問、家人に面会してコンサートを案内しました。案内済みの家を赤く塗りつぶし、また自転車に乗って地図を手に出かけました。

部員は自分たちが年間やってきたことを発表したい、地域の人に聴いてほしい、見てほしい、という強い気持ちで舞台上に立ちました。成功するしないは意識しませんでした。だからこそ、演奏後の「良かったよ」の声が無性に嬉しく、活力の源になっています。

「今年もがんばります。応援よろしくお願いします」

池田、桑田両君はインタビューを元氣よく締めくくってくれました。

インタビューは平成十七年四月二十七日

個別校友会を助成

府県単位の校友会支部の設置については会則に定めがあるとは言え、学生時代に付き合いのなかつた者が改めて交流組織を作ることになるため、支部結成は容易でないように見受けられます。

反面、会則上の定めはなくても、部・サークルのOB会やPSWの集まりなどのように、在学中から何らかのつながりがあった者同士の方が、規模は小さくとも集まりやすいようです。

この実情を踏まえ、校友会として、この度小さな個別の校友会を助成し、校友会活動全体の促進・活性化を図ることにしました。助成は次の に対して行います。

懇親及び交流会、同朋会、部・サークルOB会、ゼミ・クラス会、その他の会合などは出席者1名につき1,000円を助成します。ただし、正会員10名以上の参加が必要です。卒業生(正会員)、現役学生(準会員)、教員(特別会員)による懇親会なども対象になります。

研究会、講演会、コンサート等一律30,000円を助成します。ただし、OB(正会員)10名以上の参加が必要、部・サークルの活動は除きます。

会員各位の積極的な企画と事務局への連絡を待っています。

事務局まで御連絡下さい。

1 期生	3 期生
大前 崇史 大村 浩司 二宮 奈緒子	荒尾 智香 ト部 智子 貞 任 美
2 期生	4 期生
中江 幸子	垂井 俊邦

掲載した方々の連絡先をご存知の方は、関西福祉大学校友会事務局までお知らせください。事務局から連絡を取りたいと思います。

校友会会則

第一章 総則

第一条 本会は、関西福祉大学校友会と称する。

第二章 目的

第三条 本会は会員相互の親睦・扶助を図り、教養の向上に努めるとともに、母校の発展を援助し、社会に寄与することを目的とする。

第三章 事業

第四条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (一) 会報及び会員名簿の発行
- (二) 会員の懇親及び交流
- (三) 講演会、研究会等の開催
- (四) 母校の発展に寄与する事業
- (五) 種々の社会奉仕事業
- (六) その他の必要な事業

第四章 役員

第五条 本会の会員の種類及び資格は次のとおりとする。

- (一) 正会員 本学を卒業した者
- (二) 準会員 本学の在学学生
- (三) 特別会員 本学の現卸専任教職員
- (四) 賛助会員 本会の目的に賛同する者で、理事会が承認した者

第五章 役員

第六条 本会の名誉をけがした者または本会の目的に反する行為を行なった者は、理事会の決定により除名されることがある。

第六章 支部

第七條 本会に次の役員を置く

- (一) 本部役員
- (二) 会長 一名
- (三) 副会長 一名
- (四) 幹事 十五名以内
- (五) 顧問 若十名
- (六) 会計監事 一名
- (七) 支部役員
- (八) 支部長 各支部 一名

第七章 役員

第八条 (役員) 役員は次のとおりとする。

- (一) 会長は理事の中から会長が委嘱する。
- (二) 副会長は、理事の中から副会長が委嘱する。
- (三) 理事は幹事の中から選出された者とする。
- (四) 理事は各卒業年次毎に会員中より互選された者及び会長の指名した者とする。
- (五) 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
- (六) 会計監事は理事会において理事、幹事及び支部長以外の者から選出する。
- (七) 支部長は、各支部会員のうちから互選する。

第八章 役員

第九条 役員は次のとおりとする。

- (一) 会長は、この会を代表して会務を総括し、総会、理事会、幹事会及び支部長会議を召集する。
- (二) 副会長は、会長を補佐し、会長について支障あるときは、その職務を代行し、会長に代りてその職務を執行し、第十三条第六項に定める事項を行う。
- (三) 理事は、理事会を組織し、第十四条第四項に定める事項を行う。
- (四) 顧問は、会長の諮問に応じ、助言を行うことができる。

第九章 総会

第十条 (役員) 役員は三年とし、再任を妨げない。

- 一 役員に欠員が生じたときは、これを補充することができる。
- 二 前項の役員は、前任者の残任期間とする。
- 三 役員は、退任しても後任者が就任するまでは、その責任を免れるものではない。

第十章 総会

第十一条 本会に次の会議を置く。

- (一) 総会
- (二) 理事会
- (三) 幹事会

第十一章 総会

第十二条 総会は毎年一度初めにこれを開く。ただし、会長が必要と認めるとき、幹事会の議決のあったとき及び会員総数の五分の一以上から会議の目的事項を示して請求があったときは、臨時総会を開く。

第十二章 総会

第十三条 総会は当日出席の会員中からこれを選ぶ。

(六) 会計監事 会計監事は本会の会計及び収支決算を監査する。

第十三条

第十四条 理事会は会長が必要と認めるとき及び理事五名以上から会議の目的事項を示して請求があったとき、開く。

第十四条

第十五条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第十五条

第十六条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第十六条

第十七条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第十七条

第十八条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第十八条

第十九条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第十九条

第二十条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十条

第二十一条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十一条

第二十二条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十二条

第二十三条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十三条

第二十四条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十四条

第二十五条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十五条

第二十六条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十六条

第二十七条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十七条

第二十八条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十八条

第二十九条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第二十九条

第三十条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第三十条

第三十一条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第三十一条

第三十二条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第三十二条

第三十三条 理事会は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

三 事務局運営の細則は、会長が別に定める。

第六章 会計

第三十四条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもつてこれに当てる。

第三十五条

第三十六条 正会員の会費は終身会費十二万円とし、在学中、毎年三万円を納入する。

第三十七条

第三十七条 特別会員の会費は年会費一万円とし、在職中、毎年度総会当日までにこれを納入する。ただし、旧専任教職員は除く。

第三十八条

第三十八条 賛助会員の会費は年会費一万円とし、毎年度総会当日までにこれを納入する。

第三十九条

第三十九条 理事会及び幹事会において臨時に会費の徴収が必要と認められた場合は、その都度必要額を徴収する。必ずに納入した会費は、還付しない。

第四十条

第四十条 会計年度は、毎年四月一日始まり、翌年三月三十一日に終わる。会計年度は、会計監査を経て総会に報告し、承認を得なければならない。

第四十一条

第四十一条 本会の会計年度は、毎年四月一日始まり、翌年三月三十一日に終わる。会計年度は、会計監査を経て総会に報告し、承認を得なければならない。

第四十二条

第四十二条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十三条

第四十三条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十四条

第四十四条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十五条

第四十五条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十六条

第四十六条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十七条

第四十七条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十八条

第四十八条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第四十九条

第四十九条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第五十条

第五十条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第五十一条

第五十一条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第五十二条

第五十二条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

第五十三条

第五十三条 支部は、原則として理事及び幹事会において審議した事項を議決する。ただし、緊急動議については出席会員の過半数が承認した場合にのみ議題とすることができる。

アンケート結果

■ 本学を巣立った卒業生たちは、いまも輝きつづけている ~アンケート調査から~

校友会事務局では、一期生・二期生・三期生を対象に、卒業後の現況についてアンケート調査を実施（平成16年10月1日）しました。調査対象者は782名。内110名が回答（回答率14.1%）。

調査項目は、①卒業時の進路、（福祉、医療、公務員、教育、企業、進学、その他）②現在の職場、（卒業時と同じ、卒業後就職、転職、求職中、無職）③転職理由、④現在の勤務先満足度、⑤卒業後取得した資格、などでした。

転職者は25%

卒業後施設・企業に就職した100名（男性42名、女性58名）のうち現在も同じ職場と答えたのは65名（男性29名、女性36名）65%となっている。このなかで男性の定着率は69%に対し女性は62%となっている。一方、転職者は25名（男性12名、女性13名）25%に達している。

キャリアアップ

転職の理由としては、キャリアアップのため10名（18.5%）、労働条件が悪い17名（13%）、健康・体力的理由6名（11%）など。具体例では特養からデイサービスの長へ、施設から社会福祉協議会職員へ、臨時・嘱託職員から正職員の職場などへとキャリアアップを図っている。

高い満足度

第一期生の満足度を見ると転職組（75%）が非転職組（65%）より満足度が高い。全体でもやや満足以上は69%、普通以上は実に97%を占める。又、三期生から二期生、一期生と転職者が増加するに比例して満足度が高くなっている。

スキルアップをめざして

卒業後取得した資格は全体で社会福祉士30名、福祉コーディネーター5名、訪問介護員研修（1、2級）5名など。福祉現場で必要な資格を業務上や将来に備えて取得すべく、卒業後も研鑽を怠っていないようだ。

《校友会事務局》今後も追跡調査を行う予定です。ご協力をお願いいたします。

■ 校友会運営（特に会報・ホームページ）について

~アンケート調査から~

校友会事務局では、今後の校友会運営上の課題、大学設立10周年行事への校友会としての参加などについて、記述式のアンケート調査を実施（平成16年4月30日）しました。調査対象者は校友会理事・幹事等役員42名。内12名が回答（回答率28.6%）。

調査項目は、①校友会運営における課題 ②大学設立10周年記念事業（平成18年）に対して校友会としてどのようなことができるか ③校友会報・ホームページに対する意見、などでした。今回は、③の会報・ホームページに関する部分を抜粋してご紹介します。

校友会会報

- ・掲載内容を理事会、幹事会で検討する。
- ・会員による編集体制を確立する。会員からなる編集委員会を設置する。
- ・大学情勢を示す諸統計欄（学生数、奨学金等利用状況、教職員異動など）を常設する。
- ・吹奏楽部などOB・OGが立ち上がっているクラブ・サークルの取材がほしい。
- ・部・サークルの紹介、ゼミの紹介などがほしい。
- ・理事・幹事のグループディスカッションや対談を掲載する。
- ・福祉の現在の動向の紹介や福祉をテーマとした記事（例：デンマークの福祉事情、介護の豆知識など）がほしい。
- ・取材対象の校友や学生の出身校・卒業年・ゼミを併記し大学全体の広報と連携してPRする。
- ・校友会総会や大学のイベントの予定、報告などの記事を充実させる。

ホームページ

- ・情報更新（総会、大学のイベントや教職員異動報告など）を怠らず、小まめに行う。
- ・総会、懇親会などの報告。
- ・クラブ、サークル活動の紹介、試合結果の報告など。
- ・卒業生の近況報告（現在の職種、業務内容の紹介など）
- ・会員相互の書き込みができる掲示板を新設する。
- ・証明書の申し込み、住所等の変更をホームページから出来るようにする。
- ・会員の利便性とvoiceを中心とした内容で充実を図る。
- ・在学生に対する職業紹介（アルバイトなども含めて）を行う。

《校友会事務局》調査項目①②については、号を改め、機会を捉えて御紹介します。

関西福祉大学を卒業して四年が経とうとしています。大学生活と同じ月日を社会人として過ごしてきたのですが、大学生活同様本当



株式会社ケイワイ みのりデザインサービスセンター
姫路営業所 所長 古井 洋平 (1期生)

利用者のニーズに答えて

にあつという間に過ぎました。この四年間で多くの人々と出会い、多くの事を学び、本当にいい経験をさせていたいただいています。

私は現在、株式会社ケイワイ 姫路営業所のデザイナーサービスセンター所長として働いています。業務内容は新規利用者獲得のための営業活動、利用者様・ご家族・ケアマネジャーとの調整、苦情処理、事業所ハートの管理、職員研修などをおこなっています。入社当時は「売上」や「数」といった一般企業のやり方に戸惑いを感じた時期もありましたが、売上を追求して日々の業務を行うのではなく、利用者様のニーズに応え、利用者様の為により質の高いサービスを提供していけば、自ずと「数」がついてくることに気づきました。サービスの質はもちろんのこと

地域との結びつき、認知度UPのための企業努力などもしていかないといいませんが、やはり基本は利用者様本意のサービスを提供することだと思えます。

デザイナーサービスという限られたサービス提供時間内で、利用者様のニーズ・ご家族のニーズを基にサービスを提供する難しさ、やりがい、喜びを感じながら日々業務に取り組んでいます。利用者様が「その人らしく」過ごしていただく為に利用者様の状態を「観る」、話・声を「聴く」、そしてそれらを基にニーズに「応える」ということを職員一同実践しています。

仕事をしていて、落ち込んだり、悩んだりする事もありますが、そんな時は利用者様の「笑顔」をみると励まされます。それと、関西福祉大学

の友人からの電話・メール、校友会会報に掲載されている一期生、後輩の皆様活躍されている記事を見ると「俺も負けていけない」と感じ、励まされています。

私は大学に真面目に通ったほうではありませんが、関西福祉大学の四年間は私にとってかけがえのない大切な時間でした。在学生の皆様も大学生活でしかできない経験をたくさんしていただきたいと思っています。その経験が自分自身の財産となり、人間としての幅が広がり、必ず社会人になって活かされます。旅行・遊び・勉強・クラブ活動・バイト等何でもいいので、これだけは人に負けない」と言える事を大学生活の中で経験して下さい。そして、「夢」に向かい突き進んでいただきたいと思います。

私と仕事

校友ネットワーク



石川病院 地域連携室 金川 未来 (1期生)

どこかで道が交差して

医療ソーシャルワーカー(以下MSW)の仕事について、はや三年になります。少しずつこの仕事にもなれ、退院調整・入院相談という主な業務にも、自分なりのやり方・進め

方が出来てきたころかと思っています。

しかし、初めからMSWとして就職したわけではなく、在宅介護支援センター(地域包括支援センター)に嘱託職員として勤務していた期間が一年半ほどありました。嘱託職員ということで、ケースを担当するということはありませんでしたが、支援センターの役割、また始まったばかりの介護保険制度の理解を深める上で大変貴重な経験となりました。

その後、縁あって現在の職場に勤務することになったのですが、当初はすべての流れが速い病院という場所、大変戸惑いました。医療スタッフが話している専門用語の羅列に全くついていけず、質問をするにもどのタイミングで声をかければよいかわからず、いったいここに

福祉職としての私が居る意味があるのだろうかと非常に悩みました。

そういつときいつも支えてくれたのは、同じソーシャルワーカーの皆さんです。お互い同職種は職場で一人という場合が多く、なかなか相談しにくくてもできないというのが現状です。問題点を話し合い、他のワーカーの意見も聞きながら自分の相談業務のあり方を見つめなおす意味で、横のつながりというのは非常に重要であると思います。

意外にも、在学中にさほど交流のなかった人とも仕事を通じて頻繁にお話をする機会があったりして、同じ道を歩んでいるのだどこかで道が交差しているのだと、感慨深く思います。

また、どの職種にも言えることですが、常に自己研鑽を積み、スキルアップを図っていく

必要があります。知ることだけで問題が解決し、よい相談が行えるわけではありませんが、情報を得、昨日は気づかなかったことも今日は目がいくセンスを磨くことで、ベストと言わずともベターなソーシャルワークができるのではと考えています。

時々、ひとの人生そのものにと、たとえ一端でも関わることになるこの仕事が怖くなる時があります。しかし、「私じゃなくて他のワーカーの方がもっとよい相談ができるかも知れない」とは常日頃思っていることで、自信のなさはいつまで経っても相変わらずです。しかし、自信がないからこそ調べる・聞くといったことを積極的に行う、予断をもってあたらないといったプラス面もあるのではないかと考え、独りよがりにならない援助が出来る糧になればと思っています。

卒業生向け求人票の閲覧について

卒業生向け求人票は KUSW NET(<http://info.kusw.ac.jp/izumi/kyujin/index.html>) で閲覧することができます。大学あてに求人がありました既卒者向けの求人票を掲示していますので、ご利用ください。

なお、閲覧の際に必要なIDとパスワードは問い合わせをいただいた卒業生のみ配布しています。必要な方は就職課(shushoku@kusw.ac.jp)までお問い合わせください。



このような災害が再び起こらないことを祈りつつ、万が一災害が生じた場合には、少しでも地域に貢献できるように、今回の経験に反省を加え、制度を充実させていきたいと考えています。

また、校友の皆さんにもそれぞれの地域で人間としての純粋な類的感情から、自発する個人にならうて頂きたいと思えます。皆さんのご支援よろしくお願いたします。

(地域センター 溝端剛記)

豊岡災害ボランティア

めざそう「自発する個人」
 〈災害救援学生ボランティアに学ぶ〉

昨年から今年にかけて、わが国は多くの自然災害に襲われました。兵庫県内においても昨年の風水害で多くの被害が生じました。

「地域貢献」をその使命に掲げる大学として、本学は何がをしなければいけないのかという自然な思いから、十月二十五日に「災害救援学生ボランティア派遣制度」を発足させ、赤穂市および被災地から提供された情報をもとに、赤穂義士ゆかりの地である豊岡市へ、ボランティアを派遣しました。その総数は十月二十六日から十一月一日までの六日間で四〇名に上りました。また、学内支援ボランティアによって、三万一千百円の義援金も集められました。これらの活動は多くのメディアに取り上げられました。

災害救援学生ボランティアの活動日誌を見ると、なにも特別なことを考えるのではなく、人間として当然なすべきことという思いから参加しているのが分かります。また、テレビの画像に映し出された悲惨な光景を前にして、おそらく学生たちは無意識に「想像の中での境遇の交換」(道徳哲学者アダム・スミス)を行い、そこから生じる共感や類的感情に突き動かされて、純粋に人間として行動したことが分かります。

平成十六年度就職状況 就職率九八・六％達成

本学は開学以来、一、三期生が九八・三％、二、四期生が九八・五％と高い就職率を誇ってきました。第五期生の就職率は三月三十一日現在で九八・六％となっており、先輩に引けを取らない活躍ぶりです。

本学卒業生の一人ひとりが、明確な進路目標を持ち、前向きな職業観や社会性を養い、自信を持って就職活動に取り組んだ成果であると考えています。

また、昨年度も本学卒業生の勤務先事業所から多くの求人が寄せられました。本学OB・OGの評価が高く、後輩たちの就職活動の力になっている様子が見取れます。諸先輩の皆さんに、心から感謝している次第です。

現在、新四年次生は就職戦線に突入、企業の採用試験にチャレンジしています。三年次生たちも就職活動の準備を開始しています。大学といたしましては、学生一人ひとりが夢を実現できるよう、ゼミ教員と就職課職員を中心に、全学をあげて支援体制をとっております。

OB・OGの皆さん方におかれましては、後輩たちから「OB・OG訪問」等の要請を受けたときなど、どうか積極的に応えていただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

■第5期生就職状況

区分	男性	女性	合計	%
A 卒業生 (進学者を除く)	96名	140名	236名	
B 就職希望者	86名	125名	211名	87.6 B / A+D
C 就職者	84名	124名	208名	98.6 C / B 88.1 C / A
D 進学者	1名	4名	5名	

「i-MAIL」及び「学びの泉」 システムの利用期限について

大学からのお知らせ

在学時、皆さんに提供しておりました「メールシステム(i-MAIL)」及び「学びの泉」について、卒業後も継続して閲覧等、利用可能となっておりましたが、このたび利用期限を設けることとなりました。

利用期限は平成17年9月30日です。卒業生の皆さんは同日をもって「i-MAIL」及び「学びの泉」の利用が不能となりますので御留意ください。

平成16～17年度人事異動(採用・退職)

区分	日付	職名	氏名
採用	H17.1.15付	新学部開設準備室(助教授)	齊藤 早苗
	H17.2.1付	新学部開設準備室(教授)	山崎 雅代
		非常勤職員	姉帯 路子
		非常勤職員	河野 美智子
		非常勤職員	本家 雅子
	H17.3.1付	非常勤職員	中崎 玲湖
	H17.4.1付	教授	赤木 正典
		教授	鈴木 英鷹
		教授	坂本 真佐子
		助教授	岩本 伸一
		助教授	服部 浩
		講師	井上 尚美
		講師	光田 尚美
		助手	工藤 歩剛
		助手	中村 剛
		新学部開設準備室(教授)	菊井 和子
		新学部開設準備室(教授)	榎田 守子
事務職員		清水 アヤ子	
退職		H16.12.31付	非常勤職員
	H17.3.31付	教授	高橋 正
		教授	高谷 よね子
		教授	藤本 修
		講師	栗山 直子
		助手	今西 徹
		助手	與那嶺 司
		事務職員	正木 美佐恵
		非常勤職員	竈 三稚
		非常勤職員	長野 みどり
		非常勤職員	安本 理恵

禁煙標語・川柳コンテスト

優秀作品表彰

現在、関西福祉大学では敷地内全面禁煙を目指して禁煙運動を展開しており、所定の喫煙コーナー以外は禁煙となっています。

昨年、学生の禁煙プロジェクトチームが主体となって「学内禁煙標語・川柳コンテスト」(応募一五七作品)を実施しました。優秀作品は、学内の投票によって決定し、平成十七年度前期オリエンテーションの席で学長、学部長から賞状並びに副賞(図書券)が授与されました。

関西福祉大学賞

まず一本 吸わずにしよう その勇氣 三年次 岡田みずえ

学長賞

その煙 あなたの評価を くもらせる 四年次 村上 昌代

事務局長賞

あだし嫌やつ たばこ吸ってる あなたの姿 H17卒業 山本 るみ

禁煙プロジェクト賞

煙草吸う みんなのころ けむりソウ(煙草) 三年次 中岡 威

保健室賞

副流煙 まわりの人は 大迷惑! 二年次 衣笠 友博

学生委員長賞

気付いてよ 眉をひそめた 周りの目 二年次 西海 彩

学友会長特別賞

友達を あつく守ろう たばこから 三年次 吉田 康人

平成16年度国家試験結果

平成16年度国家試験合格者数は社会福祉士104名(内現役72名) 精神保健福祉士26名(内現役22名)でした。現役学生の合格率は全国平均を上回っています。両試験合格者は17名でした。

大学では、今年度も多数の学生が合格するよう、対策講座、模擬試験等の支援体制を整えています。OB・OGの皆さんも受講可能となっていますので合格の栄冠へ向け、是非ご活用ください。

対策講座・模擬試験に関するお問い合わせ：教学課 教務係 TEL 0791-46-2525 (代)

原稿募集

校友会の各種集い、個別校友会などの幹事の方は、会合の様子をお知らせください。

会員の皆様それぞれの仕事の内容や仕事上の悩み、喜びなど、800字前後の原稿をお寄せください。

記事の雰囲気伝える写真、筆者の近影などがあれば添付してください。写真は発行後返却します。

原稿及び写真の採否は事務局に御一任ください。

原稿の加筆、修正、削除などをお願いする場合があります。(事務局)

校友会 会報 第5号

発行 平成17年6月1日

発行所 関西福祉大学 校友会

発行者 和田 武夫 編集 校友会事務局

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3

TEL 0791-46-2525(大学代) 0791-46-2847(校友会事務局)

FAX 0791-46-2615

Email: koyukai@kusw.ac.jp

http://www.kusw.ac.jp/(大学HP)

http://www.kusw.ac.jp/kouyukai/index.html(校友会)

「校友会館」建設準備中

事務局からお知らせ

校友会館の建設は校友会設立当時の夢でした。

卒業生の交流と結束のシンボルであり、現役学生も日常的に活用できる校友会館の建設がいよいよ具体化してきました。

校友会館の立地選定は、大学周辺の都市計画や大学全体としてのキャンパスプランとの折り合いにも気を配らなくてはなりません。その上で人々が賑やかに集まる場所を選定する必要があり、関係者が鋭意検討しているところです。

現在、体育館の北側あたりに建設する案が有力となっています。建設案の姿が見えて来次第、機会を捉えてお知らせします。楽しみにお待ちください。

(校友会館についてのアイデア、御意見など、事務局までお知らせいただければ幸いです。)